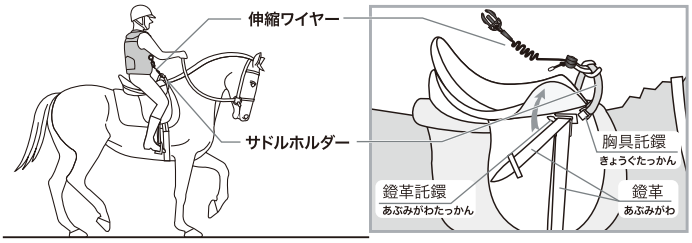
5-3 伸縮ワイヤーの鞍への固定接続方法

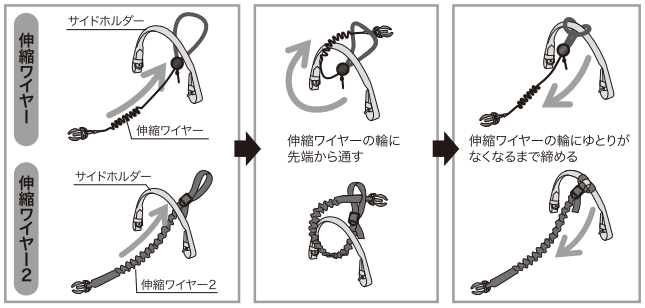
1. サドルホルダーへの取り付け

伸縮ワイヤーの接続は、鞍に付いているサドルホルダーの中央部に固定します。



サドルホルダーへの伸縮ワイヤー装着方法（注意3、4、5参照）

サドルホルダーの付いていない鞍はあらかじめご用意下さい。



注意 1. 伸縮ワイヤーの接続が不完全の場合、伸縮ワイヤーが伸びきった状態で、その接続が外れてしまい作動しない恐れがあります。

注意 2. 伸縮ワイヤーに異常（傷、ひび割れ等）が発見された場合はすぐに新しいものにお取り替え下さい。（※当社指定以外の伸縮ワイヤーは使用しないで下さい）

注意 3. サドルホルダーにひび割れなどの劣化しているものは使用しないで下さい。
サドルホルダーが切れてエアバッグが作動しない恐れがあります。
胸具託鐶に錆などの劣化しているものは使用しないで下さい。
サドルホルダーが根元からはずれ、エアバッグが作動しない恐れがあります。

注意 4. サドルホルダーの中央部に取り付けても、固定箇所がないため左右にずれ作動が遅れる場合があります。

注意 5. 胸具託鐶へ伸縮ワイヤーを直接取付するのはおやめ下さい。
胸具託鐶(サドルホルダー取付け用金具)へ伸縮ワイヤーを直接取付けると作動の際に金具が破損したり、根元からはずれてエアバッグが膨らまない場合があります。

4-6 CO^2カートリッジボンベの取扱い

○カートリッジボンベ内には炭酸ガス（CO^2）が充填されています。

○キーボックスよりキーボールが抜けた際に、圧縮バネが針と連動し、カートリッジボンベの底部（封印板）に穴を開けて、カートリッジボンベ内のガスを各気室へ送り込みます。

○一度作動（使用）したカートリッジボンベは使用できません。
（使用済カートリッジボンベは底部（封印板）に穴が開いています）
未使用の新しいカートリッジボンベとお取り替え下さい。

○カートリッジボンベをキーボックスに取付ける際に、ねじ込みが足りないと針がカートリッジボンベ底部（封印板）に届かず作動しない場合や、作動してエアーバッグが膨らんでも数秒後に遅れてゆっくり膨らむ様な誤作動の原因になります。
カートリッジボンベの取付けは、必ず根元までねじ込んでご使用下さい。

下記の注意事項を守って下さい。破裂の危険性があります。

警告 **1. カートリッジボンベは、40℃以下で使用及び、保管して下さい。（高温となる車中などでの保管はおやめください。）**

警告 **2. カートリッジボンベに強い衝撃を与えないで下さい。**

警告 **3. カートリッジボンベを加熱しないで下さい。**

警告 **4. カートリッジボンベの外面をサビさせないで下さい。サビ等が発生した場合は新しいものとお取り替え下さい。**

警告 **5. 使用済のカートリッジボンベはガスがはいっていない事を確認してから廃棄して下さい。**

警告 **6. カートリッジボンベを切断したり、穴を開けるなどの行為はおやめ下さい。**

警告 **7. モデルによってカートリッジボンベのサイズ（容量）が異なります、交換の際は必ずモデル指定のサイズ（容量）をご使用下さい。
不明な場合は、当社ホームページの「交換用ボンベサイズ表」を参照下さい。
www.hit-air.com**

注意 8. ヒットエアー以外の用途で使用しないで下さい。

注意 9. ヒットエアー製カートリッジボンベ以外は使用できません。

注意 10. 子供の手の届かない所でご使用、保管して下さい。

注意 11. 通常時（使用時）は、セットしたカートリッジボンベを回して緩めたり外したりしないで下さい。

注意 12. 再生作業等でカートリッジボンベを外した場合、カートリッジボンベをキーボックスに取付ける際、根元までいっぱいにねじ込んで下さい

4-3 キーボックス

○キーボックス

この装置（写真1）は、通常約30kg～35kg程度で伸縮ワイヤーを引っ張る力により、キーボールが抜けて、キーボックス内に組み込まれている圧縮バネ針が連動し、カートリッジボンベの底部（封板）に穴を開けて炭酸ガスを送り、作動させます。蓄用時、前方どの方向からも引っ張られてもキーボールが抜け出る組みとなっています。

警告 キーボックスを分解したり、部品をはずさないで下さい

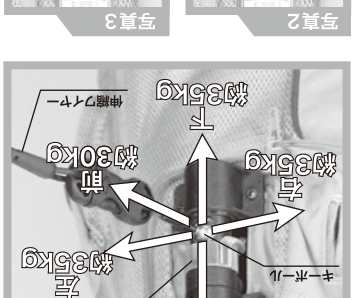


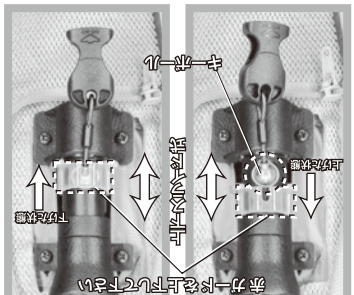
写真1

○赤力ード（スライドカバー）

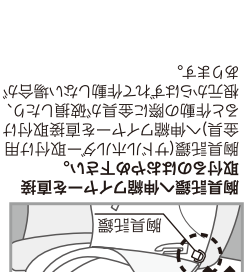
赤力ードは（スライドカバー）は、使用時は必ず上（プリー）の位置にしてください（写真2）。
赤力ードは、キーボックス再生の際にキーボールが正しくセットされたかを確認するためのパイーツです（写真3）。
キーボールが正しくセットされていないと赤力ードは下にスライドしません。

**警告 1. 赤力ードがずれてスライドされたロックの状態（写真3）では、プリーパの際に作動しない恐れがあります。
また、キーボールがキーボックスから抜けない場合、馬具と鞍がつながる危険性があります。
使用時は必ず赤力ードを上（プリー）の位置にある事を確認してください（写真2）。**

注意 2. 赤力ードがロックの状態（写真3）でも、大きな力で引っ張られた場合、キーボックスが壊れ作動する事があります。また、直ぐに作動しなくても、赤力ードを戻した時など、急に作動する場合があります。



5-4 伸縮ワイヤー取付け方法

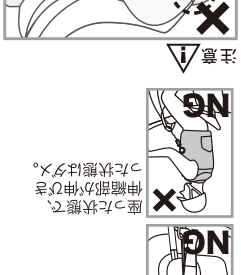


1 サドルストラップ（サドルホルダー）のワッペン面を上にし、中央部の輪部の上側にプロテクターチューブを巻き付けて長さを調節し、余った部分をカットします。

2 プロテクターチューブに伸縮ワイヤーを通す

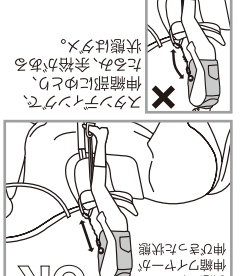
3 プロテクターチューブから出たワイヤーをルーブセッターで仮留めし伸縮ワイヤーの長さを調節します

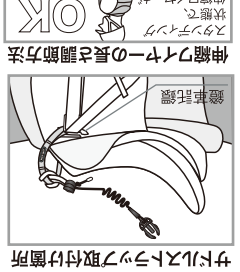
伸縮ワイヤーの長さの調節方法



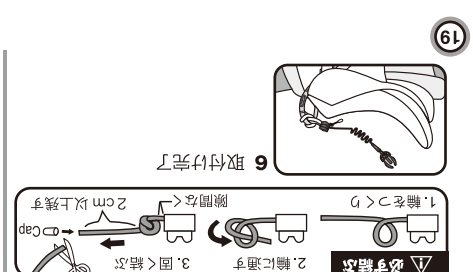
4 馬にまたがりスタンディングの状態で、伸縮ワイヤーが伸びきった状態にして長さを決めます。

5 ルーブセッターでしっかり固定し、余ったワイヤーの根元を固く結び、2cm以上残した状態でカットし、最後にワイヤー先端にキャップをします。





胸具託鐶へ伸縮ワイヤーを直接取付るのはおやめください。
胸具託鐶(サドルホルダー取付け用金具)へ伸縮ワイヤーを直接取付けると作動の際に金具が破損したり、根元からはずれて作動しない場合があります。



6 取付け完了